

これがあるからがんばれる！

私のオフタイム

OFF TIME

今月の趣味の達人

ウィズユー訪問看護ステーション
よをはいつえ
與那覇五重さん
(55歳・精神科看護師歴32年)

絵画

始めたきっかけは？

小さい頃から絵を描くのが好きで高校時代には美術部に所属。美術系の大学に進学することも考えましたが、看護師を目指すことになり、仕事を始めてからはしばらく絵を描くことを中断していました。30代半ばを過ぎた頃、ふと「このままでは仕事だけの人生になってしまう」と危機感を感じて再開しました。現在は、株式会社を設立し、訪問看護事業を始めて7年目になります。

活動内容・実績は？

油彩やコラージュなどいくつかの技法を使った絵の創作活動に、毎週土曜の3～5時間を費やしています。3カ月に1枚くらいのペースで仕上げています。サンマルクで展示してもらったり、銀座大黒屋でのグループ展や、来場者が2万4000人ほどにもなる都展(会場は東京都美術館)にも毎年出品し、とても励みになっています。今年は秋の自由美術展に向けて作品づくりに取り組んでいます。

醍醐味は？

絵を描いている時は普段の仕事ではあまり使っていない右脳が活性化されている感覚があります。絵には無意識のうちにその時の自分の心象が表



現されるもので、後から作品を振り返ると自分自身の心の状況がよくわかります。また、描いた作品は画集や葉書にしたり、ステーションの室内にも飾ってあるので、利用者の方との会話のきっかけにもなっています。

仕事への影響は？

絵を描きながら色や形の感覚を研ぎ澄ませると、この世の中のものは必ずしも「均一的なもの」や「整合性のとれたもの」ばかりではなく、色や形が人の心理状態に大きく影響していると感じます。これはケアにもつながる価値観だと考えています。

あなたにとって絵画とは？

一生続けていきたい自己表現。

あなたの自慢の趣味を大募集！

このコーナーにご登場いただける「趣味自慢」の方を募集しています。所属、お名前、年齢、連絡先、趣味の内容をできるだけ具体的にご記入のうえ、nursingstar@m-s-com.com まで投稿をお待ちしています。

上質な暮らしは、上質な眠りから

東洋羽毛マンスリーレター



アール・ブリュット作品をふとん柄にした、 羽毛ふとんの名称が決まりました！

日精看と共に、アール・ブリュットの支援活動を行っている東洋羽毛は、今年も広島大会でのアール・ブリュット展の開催に協力をさせていただきます。松本寛庸さんの『国盗り絵巻』を染めた世界初の「アール・ブリュットふとん」はいよいよ完成間近。名称は、日精看末安会長の命名により「みるね」に決定しました。完成品は広島大会の会場でご覧いただくことができ、掛けふとんと同柄カバーのセットを限定数で販売もいたします。ぜひ会場でご覧ください。



作家のご家族立会いのもと、和歌山染工で色確認を行いました